

7月30日(土)発行

MUZA  
KAWASAKI  
SYMPHONY HALL

ほぼ  
**日刊サマーミュージーザ**

Hobo Nikkan Summer Muza



©T.Tairadate

**一世一代のブルックナー、  
一期一会の奇跡的な名演**

2024年末の引退を宣言した井上道義。ハイドン「告別シンフォニー」とブルックナー「交響曲第9番」が並ぶ、まるで井上のラスト・コンサートのようなプログラムだ。

しかし、そんな感傷を笑い飛ばすような仕掛けを井上は用意していた。「告別」第4楽章のアダージョになると場内が暗くなり、スクリーンにラクダに乗った井上と、「ここから指揮者はラクダ？」と映し出される。続いて奏者一人一人の休日風景(野球観戦、旅行、ゴルフなど)が映り、



**7/29 読売日本交響楽団 告別と絶筆。一期一会のシンフォニー**

その順で次々とステージから去っていく。ついには井上も去り、最後はヴァイオリン奏者二人が立奏しながら舞台袖に消え、真っ暗になった。サマーミュージーザらしい演出に聴衆は大喜び。肝心の演奏は、バントマイムのような井上の指揮から、生き生きとした切れ味抜群のハイドンが生まれていた。

後半のブルックナーの9番は井上道義一世一代の演奏。第1楽章から井上はブルックナーと一体となる。ハイドンと異なり動きは最小限だが、読響から生まれる響きは凄まじく、かつ隔々まで美しい。クライマックスの金管の

咆哮は読響の真骨頂。コーダの激しさは魂が叫ぶようだ。第2楽章スケルツォは壮絶で、鬼気迫るものがあった。第3楽章アダージョの頂点での全管弦楽の爆発と、直後の全休止は時間が永遠に止まったかのよう。その後、ホルン、ワーグナー・チューバ、トロンボーンの美しいハーモニーと共に、浄化され全てを超越した世界に入っていた。プレトークで読響とのブルックナーはこれで最後と話した井上の指揮に、楽員たちが全力で応えた、まさに一期一会の奇跡的な名演だった。

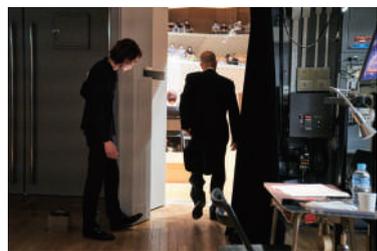
(音楽評論家 長谷川京介)



井上道義マエストロのサイン

**お客様から**

生きていて本当に良かった!!素晴らしいかったです。(50代・となりのキティちゃん) / 井上さんのプレトークがまず傑作。「ブルックナーを配信で聴いたって何も面白くない」は至言。事実、ホールを満たす読響の重厚な音響を聴けば誰しも頷くはず。魂から溢れ出た名演奏でした。ハイドンの「告別」。井上さんなら何かやるだろうと思いましたが、曲の終盤まさか全員が退場するとは!!労を惜しまぬ企画に拍手。(60代・クラシック大好き60年) / とにかく素晴らしいの一言です。井上さんの全てが演奏に乗り移り、読響の音色とともに最高のブルックナーでした。(60代・涙のレオン) / 井上道義さん指揮のコンサートを聴くのはおおよそ22年ぶりです。前回(すみだトリフォニーホール、マーラー8番)の演奏の素晴らしさが強く印象に残っており、今回も大変楽しみにしておりました。しばらくクラシック鑑賞から離れており、今回のコンサートは某YouTube番組で偶然目にして久々にチケットを確保した次第です。井上さんが2年後に引退されることもその番組で知りました。幸運な巡りあわせでこの場にいられたことを幸せに感じます。(50代・小日向) / 井上道義氏の振るコンサートはいつも何か特別な「イベント」になる。なるほど。オリジナルだ。確かに最後に悲しみはない。一本取られた。マエストロらしい明るいブルックナー。さすが体力のあるオーケストラ。息切れしない。全力のトレモロは人力でしか出せない音。井上さん、来年も来てください。(ミュージーザサマサマ) / 山梨から飛び出して聴きにきました!感染症に負けず、これからも音楽を楽しみたいと思います。今日は思い切って来た甲斐がありました!井上先生指揮のハイドン&ブルックナー最高でした~!! (50代・kohaku)



**配信控え室から**

サマーミュージーザは配信も充実! 見どころ・聴きどころや 配信の現場の声をお届けします。

**上記レビュー公演のアーカイブ配信は 7/31(日) 正午から開始!**

引退を表明した井上道義がブルックナーの白鳥の歌とも言うべき9番のシンフォニーに挑んだ。映像から、彼のある種の覚悟、壮絶なまでの生き様をストレートに感じていただけたと思います。(From プロデューサー)



【出演】指揮：井上道義  
【曲目】ハイドン：交響曲第45番「告別」  
ブルックナー：交響曲第9番(ノヴァーク版)  
【配信限定コンテンツ】  
オープニングインタビュー：日下紗矢子  
(読売日本交響楽団 特別客演コンサートマスター)



# とびきりのプログラムと共に ラトル&ロンドン響が来る!

今秋、サー・サイモン・ラトル&イギリスの名門ロンドン交響楽団(LSO)の日本ツアーが行われる。京都(9/30)、大阪(10/1)に始まり、川崎(10/2)はツアー3日目にあたる。ラトル氏&LSOのラスト・ツアーということで、気合の入ったプログラムだ。

ミュージーザ初登場の際、ミュージーザ川崎シンフォニーホールについて「It's a real treasure(これは本当の宝だね)」と言い残したラトル氏。再来日にむけて、この6月に実施されたLSO日本ツアーのオンライン記者会見でも、「個人的に一番好きなホール」とミュージーザの音響を絶賛。マエストロが愛するホールの響きを活かしたワーグナー、シュトラウス、そして母国エルガーという後期ロマン派の作曲家の傑作をあつめた、ミュージーザオリジナルのプログラムが披露される。

本公演に際して、LSOとはどんなオーケストラなのかということを変更して、朝日新聞編集委員・石合力氏に寄稿していただいた(前編:ホールを楽器にする巨匠ラトル/後編:巨匠ラトル、ロンドン響と奏でる「有終の美」)。その中で、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団がヘルベルト・フォン・カラヤンの影響を受け、歴史を背負った楽団であるのに対し、LSOは未来につい

て語る楽団であるという内容が触れられている。ミュージーザのオフィシャルブログに掲載しているのでぜひご一読いただきたい。両楽団のポストを持ったマエストロならではの視点が興味深い。

10/2(日)の川崎公演は14時開演。そしてミュージーザの翌日は札幌での公演。日本ツアーは10/9まで続く。(事業企画課KF)



©Mark Allan



©Oliver\_Helbi



©Benjamin Fiol

**サー・サイモン・ラトル指揮  
ロンドン交響楽団**  
**10月2日(日) 14:00 開演**  
**【出演】**指揮:サー・サイモン・ラトル  
 オーボエ:ユリアーナ・コッホ  
 (ロンドン交響楽団 首席オーボエ奏者)  
**【曲目】**ワーグナー:楽劇「トリスタンとイゾルデ」  
 から 前奏曲とイゾルデの愛の死  
 R.シュトラウス:オーボエ協奏曲  
 エルガー:交響曲第2番  
**【チケット】** S¥32,000 A¥27,000  
 B¥22,000 C¥14,000 D¥9,000 **完売**

**文化庁子供文化芸術活動支援事業**  
 (劇場・音楽堂等の子供鑑賞体験支援事業) 対象公演  
 子どもたち約100名を本公演に無料招待します。  
**【対象】** 中学1年生~18歳  
**【申込】** 8月1日(月)朝10:00受付開始 ※先着受付。  
 専用サイトからお申込み下さい。  
[https://sl-ticket.pia.jp/ticket/lso\\_221002.jsp](https://sl-ticket.pia.jp/ticket/lso_221002.jsp)  
 (予定枚数なくなり次第終了)

**美味しいコーヒーと  
最高の組み合わせ  
川崎!!**  
 Enjoy Kawasaki

今回は、川崎駅の目の前にあるカフェ「COFFEE MILK」に行ってきました。リッチミルクラテと塩バターあんミルクフランス(セットで715円・税込)を注文。フランスパンにバターとミルククリーム、あんこ、バターがたっぷりとはさまっています。ボリュームがありま

すが、甘さが控えめで、あっという間にパクパクと食べてしまいます。しっかりと歯応えがあり、食べ応えも十分!サマーミュージーザ限定パートナーシップ優待券を利用して、コンサートの前後に川崎のグルメを堪能してみてくださいね!(事業企画課・さ)

**COFFEE MILK** **F** アトレ川崎3F

**パートナーシップ特典**  
**飲食代 10%OFF** ※同伴者も利用可

コンサートと一緒に  
もうひとつのお楽しみ!

**PARTNER SHOP**

掲載店一覧はこちら

↑サービス対象店舗はこのPOPが目印!  
 スマホからクーポン券を提示するだけ!  
 クーポン券は7/23~8/11まで  
 何度でも利用できます。  
 公演がない日でももちろんOK!

フェスタサマーミュージーザ公式サイト  
<https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/>

#フェスタサマーミュージーザ  
 #夏ジャン  
 で検索 & 投稿  
 お待ちしています!

Twitter: @summer\_muza  
 Facebook: @kawasaki.sym.hall  
 Instagram: @muzakawasaki

毎日 日刊サマーミュージーザ  
 Hobo Nikkan Summer Muza

**スタッフ日記**

みなさんはミュージーザの「触る模型型」を存じていらっしゃいますか?  
 クローク付近にひっそりと置かれているこの模型は、視覚に不自由がある方へミュージーザの特徴的なスワイアル構造を触って体感していただくために製作しました。客席内のスロープになっっている部分はザラザラと、平らな部分はツルツルとした触感になっています。パイプオルガンは模型から取り外せるようになっており、実際のパイプオルガンには触れませんが、模型なので触れます。耳からの情報に加えて「ミュージーザってこんな形なんですよ」という体験がプラスされれば、より豊かなコンサートになるのではという想いをこめて模型を設置しております。

冒頭で「ひっそり」と申し上げましたが... その名の通り「触る」ことがウリなのに、こんなご時世なので積極的に「触ってください!」と一言にくい今日このごろ。ご希望の方は手指を消毒のうえ、触ってみてください。※お近くのスタッフにお声がけください。(事業企画課・わ)